

(1) 宿泊税を活用した今後の観光振興施策について

「4. 第1回部会での御意見を踏まえた施策案」

○施策1～4で優先順位が高い施策は何ですか？

(1 戦略的な観光地域づくり、2 周遊性向上のための二次交通対策、3 快適な旅行環境のための受け入れ環境整備、4 効果的なプロモーションの展開)

○施策案の中で、具体的な活用策について御意見はありますか？

青柳委員 有限会社青柳 代表取締役(旅館青柳)

- ・全体的には、意見や現実を踏まえたものになっており、大きな方針について異論はない。新しい観光資源を作るにあたっては、角田丸森地区については、阿武隈川を利用した観光についても、今後考えていただきたい。

安部委員 鎌先温泉旅館組合長(四季の宿みちのく庵)

- ・仙台圏に観光客が集中しているのはアクセスの良さや交通面の便利さが理由で、外国人に限った話ではなく公共交通を利用する方が多い。
- ・白石は駅から宿泊施設や観光施設まで行くアクセスが弱い。便利で調べやすいところに客が流れるのは当たり前だと改めて思った。
- ・人口が減少している中、観光業はインバウンド集客に力を入れなければ経営が厳しくなると思う。仙台空港や新幹線で来た方の移動手段をもっと充実させていただきたい。
- ・旅行者は携帯電話で情報を調べるので、紙媒体だけではなく、分かりやすく調べやすくより利用しやすいデジタルコンテンツを宿泊税を活用して充実させ、集客に繋げることが非常に大切なことではないか。そこから先は各旅館の特徴をもって、2次的、3次的に訴えていくかたちが一番の理想だと思う。

大沼響子委員 民泊 杉-SUGI- オーナー

- ・施策案には是非取り組んでいただきたい内容が多くある。
- ・県でビジョンを描いているが、どれだけ町と共有して反映されるのかが重要。町に落とし込んでいただきたい。
- ・交通の面で、レンタカー業の誘致などは良いと思うが、それと同時にまずは自分たちでできる範囲は何かを知っておくべきだと思うので、顧客送迎など、どの程度まで許容範囲なのかしっかり調べて取り組んでいきたい。

鎌田委員 宮城県レジャーホテル協会 副組合長、株式会社ホワイトグレース 取締役(ホテルパルシス)

- ・二次交通について、レンタカー事業者の誘致は需要が無いと難しいと思う。仙南地域のコンテンツがあまり知られていない現状を踏まえると、まずは今あるコンテンツを発信していき、その後に誘致の話になると思う。
- ・仙南地域だけで欧米の方を呼べるコンテンツがあるか。情報発信と同じだが、欧米人が来るような目

玉があるのに、気づいておらず発信できていないこともあると思う。

- ・他の地域との連携という面では、アニメコンテンツ「ハイキュー!!」「ジョジョ」などを利用して、仙南・県北・県中に各キャラクターのノベルティを宿泊者に配布又は販売することで、仙台市だけではなく、閑散期の穴埋めにつながると思う。
- ・仙南地域の発信をしているが、我々が想定していない、カルチャーに関連したお客さん（インターン含む）に、地域の良いところを見つけてもらうこともできるのではないかなと思う。それぞれのお客様が発信することで、地域も並走して魅力を発信するといった、今あるものを活用したソフト面での取り組みができる。そうすれば需要が見込めて、二次交通や人材を受け入れるためのきっかけが生まれるのではないかな。

田村座長

- ・蔵王町長は駐車場から数分で御釜に行けるのは貴重だと話している。我々もSNSで英語発信している。

佐藤委員 青根温泉旅館副組合長（湯元不忘閣）

- ・優先順位としては、施策3「宿泊業体制強化支援」の人材確保に力を入れてほしいと考えている。
- ・資料1のp.10のグラフ（企業の雇用人員判断D.Iの推移）を見ると、雇用人員は減っており、当館含め圏域でも従業員不足に悩んでいる施設は多いのではないかなと思う。旅館に空きがあるのに人手不足で予約を取れないことがあり、「フルキャスト」などの派遣サービスも使いながら、なんとかしのいでいるのが現状
- ・この状況を良い方向にもっていくために、若者の就職支援として、奨学金支援制度や、県外大学との就職支援協定などに力を入れていく必要があると思う。企業説明会や保護者向けの就職セミナーによって県内の若年層の獲得にも力を入れるのが良いと思う。
- ・魅力あるコンテンツを作っても、お客さんを最大限に受け入れることができなければ、せっかくのチャンスを無駄にしてしまうことになる。今からでも人材確保に力を入れることが重要

篠木委員 有限会社三治郎旅館常務取締役（旅館三治郎）

- ・県の補助制度については、観光庁と同じように記載されており良いとは思う。観光庁の補助金は大規模旅館では使えるが、中小企業は使えないものが多いので、宿泊税を利用した補助金を県で設定するのであれば、小さい旅館も使えるように内容を考えて幅も広げると、利用する旅館も増えると思う。
- ・資料1のp.29の施策1「観光地域づくりの担い手体制強化」において『既存DMOと連携して』とあるが、個人的に宮城県のDMOを良く思っていない。既存予算は仕方ないが、来年度以降も予定通り予算を集めてDMOにという形なのであれば、各市町村に振り分ける形を検討していただきたい。協議も必要なのではないかなと思っている。
- ・えぼしスキー場からの要望で、蔵王レストハウスを運営しているが、エコーラインの通行量が増えている。トイレの整備も県で検討しているが、混雑時の対策としてWi-Fiの整備をしていただきたい。渋滞時に1本道なので引き返すこともできず困っており、他のエリアでもそういう部分があると思う。地域づくりや観光客が安心安全に過ごせることにつながると思うので、検討いただきたい。
- ・基本的にはコンテンツだけでは宿泊に必ずしもつながらない。コンテンツを作ったら、最寄りの温泉や街の活性化のための連携が不可欠

- ・冬は「すみかわスノーパーク」の樹氷でだいぶ活性化するが、台湾のツアー会社から「バスを途中で降りると、遠刈田は昼間の観光後に利用できる店舗がない」と言われたので、やはり町の活性化が重要。町全体として遠刈田の活性化を5年10年といった長いスパンで考える必要がある。

嶋崎委員 株式会社ODORIBA 代表取締役（柚子のあぜ道、雨乞のかえる）

- ・10年ぐらい同じ課題と向き合っている気がする。人手不足など、難しい課題だと思うが全く改善されていないのと思う。
- ・コンテンツ造成に関わることがあるが、私自身も含め、既存の事業者だけで新しいことをやるのは難しいのではないかなと思う。新しいアイデアも出ないし、体力もない。意欲のある積極的な事業者は、まだまだいると思う。
- ・短期的な解決方法にならないかもしれないが、新しいことをしたい若者や異業種の方を応援するのが良いのではないかな。
- ・仙台以外に行かないのは魅力ある場所が少ないか、もしくは知らないからだと思う。既に関わりのある事業者に声がけするのはやりやすいと思うが、それだけだと解決しないため、学生も含めて若い人材の育成に投資するのが良いのではないかな、というのが率直な感想

渡部委員 七ヶ宿まちづくり株式会社 常務取締役（街道HOTELおたて）

- ・七ヶ宿は交通面でかなり苦労しているが、インバウンドでもレンタカーを借りている人が多くなっており、人も多く流れ込んでいる。ただし、宿泊につながるかというとそうではない。コンテンツ不足なのか理由はまだはっきりしないが、注視していきたいと思う。まずはこの方向性で進めていくべきかと感じた。

「5. 仙南圏域での施策活用イメージ」

○圏域で磨き上げていきたい観光資源・コンテンツは何ですか？

○観光地への誘客拡大に向けて、必要とする移動手段や支援策は何ですか？

青柳委員

- ・角田市商工会の役員として色々なイベントに取り組んでいるが、商工関係では3割増し商品券を5年続けているが非常に人気がある。それにより商店の買い物客が増えており、非常に効果があると感じている。
- ・一方で、道の駅かくだでは農産物や新商品が売られており、今までの農業を変えようと若者が参加し、今まででは考えられなかった組合せなど新しい商品を作っている。
- ・年5～6回イベントがあるが、高校生が様々なアイデアに本気で取り組んでいる印象。高校1～2年生から取り組み、1、2年後には仲間も増えてアイデアも大きくなっている。これに事業者たちが刺激を受けている。
- ・角田丸森地区の観光は特別な魅力があるわけではないし、通過型観光地でも無いが、商品券や新しい味を使って若者の力を活用し、夜間も含めた体験型のイベントを作っていけば、観光につながると思う。

- ・観光客だけでなく、ビジネス客も宿泊税を負担する。ビジネス客は1泊や日帰りが多いが、営業は2, 3泊、工事関係は1, 2か月宿泊するため、何らかの地域クーポンがあると、ビジネス客への還元にもなる。広域型のクーポンもできたら良いと思う。連泊する方は休みもあるので、休みの日にクーポンを使って観光していただくこともアイデアとしてあげたい。

田村座長

- ・P34~35に合いそうなご意見。道の駅かく다는、(道の駅の中で) 県内集客3位で、周遊の拠点になっている。

安部委員

- ・白石にも間もなく道の駅ができるが、地元業者がほとんど入っておらず、ほとんど仙台の業者。白石の道の駅で仙台のお土産を売ることが不思議に思う。
- ・10年来同じ話をしているが変わらない。大きく変えようと困る方もいるし難しさがあると思う。
- ・白石高校ではいろんな試みをしており、地元の子供たちに自分の町の魅力や観光について意見を聞くのが良い。旅行の決定権があるのは女性、子供。施設利用者も女性客が満足しないとリピーターにつながらない。
- ・人材確保の面でも、旅館は365日営業するのが当たり前だったが、人材不足のため今は定休日を設けている。
- ・寮も新築し、女性スタッフの平均年齢は27歳。人材育成や生活しやすい環境づくりに力を入れている。連れてくるだけでなく受け入れる側の整備が重要。何をするにもお金がかかり、寮を建てるのにもお金がかかる。
- ・周辺整備をするのにも、宿泊税を活用できればありがたい。地域の連携も県が中心となっていただければスムーズにいくと思う。
- ・白石の市長は道の駅に期待をしているが、間もなく近隣に東北最大のイオンができる。道の駅に実際どれだけの人が来て、お金を落とすのか懐疑的。
- ・今まで手を付けていないことに積極的に手を付け、若い世代の子供たちに意見を聞くべき。自分たちとは違う視点で物を見ていると思うので、この会議の参考になると思う。そこから具体的な進め方を我々が考えるものの一つの方法ではないか。

大沼委員

- ・宮城オルレに来ている人で、運営している民泊に宿泊した人はいないと思っている。蔵王遠刈田コースができるということで、蔵王でも民泊を運営しているのでそちらの期待はあるが、もう一工夫が無いと宿泊につながらないと思う。

鎌田委員

- ・P34でオルレの話があったが、大沼委員と同じように思っている。県として推していると感じるが、YouTubeで見ると日帰りで済んでしまう内容。インスタもフォロワーが1,000人ぐらいと少ない。あくまでもアイデアで、管理上難しいかもしれないが、夜間に開催してライトアップしたら宿泊につながるのではないか。
- ・地域的には、1泊さえしてもらえればいい。目的地でも通過点でも、まずは1泊してもらうことがス

タートだと思う。

佐藤委員

- ・P11 左上グラフで日別宿泊観光客数の割合は4月と8月に多いので、5～7月の少ないところを引き上げるコンテンツを作ると良いと感じた。
- ・新しいコンテンツを作る際に、地元の宿泊施設に泊まっていただくようなスタンプラリーや、新施設やコンテンツを利用した方へのサービスなど、観光地と宿泊施設をつなげる取り組みが必要だと感じている。

篠木委員

- ・コンテンツ＝樹氷ツアーではなく、イベントも一つのコンテンツだと思うので、イベントに対する補助もお願いしたい。遠刈田では盆踊りがあるが、長年続けていくためには人手不足もあり、ボランティアも多いので、補助があればやる人やイベント会社への委託もできる。今後検討いただきたい。
- ・宿泊税の使途について、ハード面はすぐにはできないと思うが、積み重ねて貯めていき、皆の話を聞いて使う形がいいと思う。
- ・遠刈田では中学校が統合されて廃校で残っているところがあり、町でも協議が始まっている。由利本荘市に行った際に、廃校が「鳥海山おもちゃ美術館」として、遊び場所や展示スペースになっていた。廃屋撤去にも宿泊税が使えるようになり、エリアにお金があれば、補助金を使えることになる。
- ・定率で貯めておく制度があれば、そういったことに使える。各エリアでやりたいことは変わってくるので、幅広く使えるよう長い目で検討いただきたい。

嶋崎委員

- ・3点ある。コンテンツについて、新しく造成するコンテンツの大半は、売れても売れなくても誰も困らない。既存事業者の声掛けし、ツアー造成を観光連盟やDMOが主体でやっているが、誰も本気で売っていない。誰かが本気で取り組まないと、磨き上げもできないし、売ろうとも思わない。リスクを取って売る事業者がないと、絶対に売れないと思う。
- ・角田のまちなかで宿泊施設をしている。道の駅かくだが県内3位の集客があり何万人も来ていることは事実だと思うが、街中から離れているため、角田の中心市街地の飲食店はほとんどの恩恵を受けていないと感じている。人が集まる＝地域全体が潤うというわけではないので、動線や人の流れなど一工夫、違った角度から考えないとスポット的な流れで終わってしまう。
- ・補助金やクーポンに対しては慎重派である。一度お得だと感じると、それなしでは消費しづらくなる。きちんと投資されて成果が見えた上では補助金はあると思うが、それを無しに配るのは反対。困ったことや、やりたいことがあったときなど、行政頼みは最終手段だと私は思っている。お客さんに喜んでもらったお金でこういうことやっているんだ、と格好つけて言いたい。自分の仕事に責任と誇りをもって稼いで再投資していきたい。それができないのなら自分自身の力不足。活用できるものはしたいが、民間は民間で頑張り、足りないところを補ってもらうことが本来あるべき姿だと思う。

渡部委員

- ・長老湖のSUP体験と入浴施設を運営し、そのコンテンツを売り出している。著名なインフルエンサーにもPRをお願いしたが大きく数字に変化はなかった。SNSを通じてフォロワー数も増えている

ので、来年度以降も期待していきたい。

- ・ホステルおたては7～8月にスポーツクラブや子供向け団体の合宿需要がかなり多く、過去最高の売上、人数を記録した。インバウンドの影響により観光の宿泊施設は金額も上がっており、予約がとれないということも影響して、子供たちが行き場を失っている。そういう隙間をつなげることも必要だと思う。

田村座長

- ・ライドシェアについて、国が大幅な規制緩和を検討中。複数の事業者や自治体、NPOが連携して取り組むことができるようになりそう。

嶋崎委員

- ・行政でやってほしいことに規制緩和がある。宮城県は簡易宿泊所の許可を取る事が厳しい。徒歩5分以内に駆け付けられるスタッフの配置や水回りなど、もちろん宿泊者にとっては満たすべき条件だとは思いますが、もう少し緩和できないか。全国的な事例を見て、宮城県ができることもあるのではないかと思います。
- ・古民家宿の申請は1年以上かかり、たらいまわしにされた経験がある。やりたい事業者がいると思うので規制緩和も含めて取り組んでいただきたい。

大沼部会長

- ・皆様の意見を参考に事務局に案をまとめてもらい、9月末に圏域会議で代表として発言させていただく。仙南の意見を通すには、一体となってやっていかなければならない。新しいコンテンツも必要だが、今あるコンテンツやイベントをブラッシュアップして、もう少しPRを上手にやれば、来ていただくお客さんも増えると思う。
- ・仙台から日帰りで仙南に来る方もいるが、仙台を観光して、田舎でゆっくり休んでという方もいる。是非、そうした客を仙南に集客できるような意見をまとめていければと思う。

(2) その他

鎌田委員

- ・レジャーホテルは、風営法の規制で補助金を受け取ることができない。
- ・宿泊税の枠組みを作るにあたって、仙台市ではDXシステム改修費など施設の改修に使えることになった。これは全国的に画期的な話。宿泊税をいただく以上、県内においてはレジャーホテルも同等に扱っていただきたいと思う。風営法があるので、今まで補助金の恩恵は何十年もなく、融資も厳しい状況。補助金や助成金で申請できるものがあれば、活用したい。